



フードバンク HIRODAI ～持続可能へ向けて～

応募者：弘前大学・労働経済学ゼミナール

弘前市の紹介

- 人口約17万人（2019年10月時点）
- 弘前城の城下町として発展した歴史をもつ



弘前城と桜



ねぷた祭り

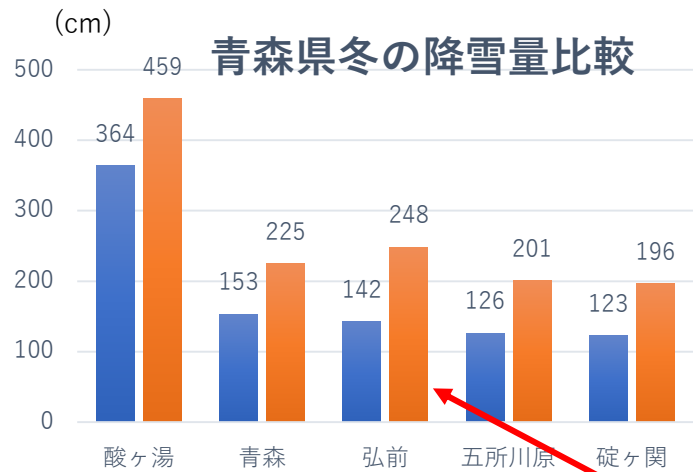


りんご畑



冬の岩木山

弘前市の特徴

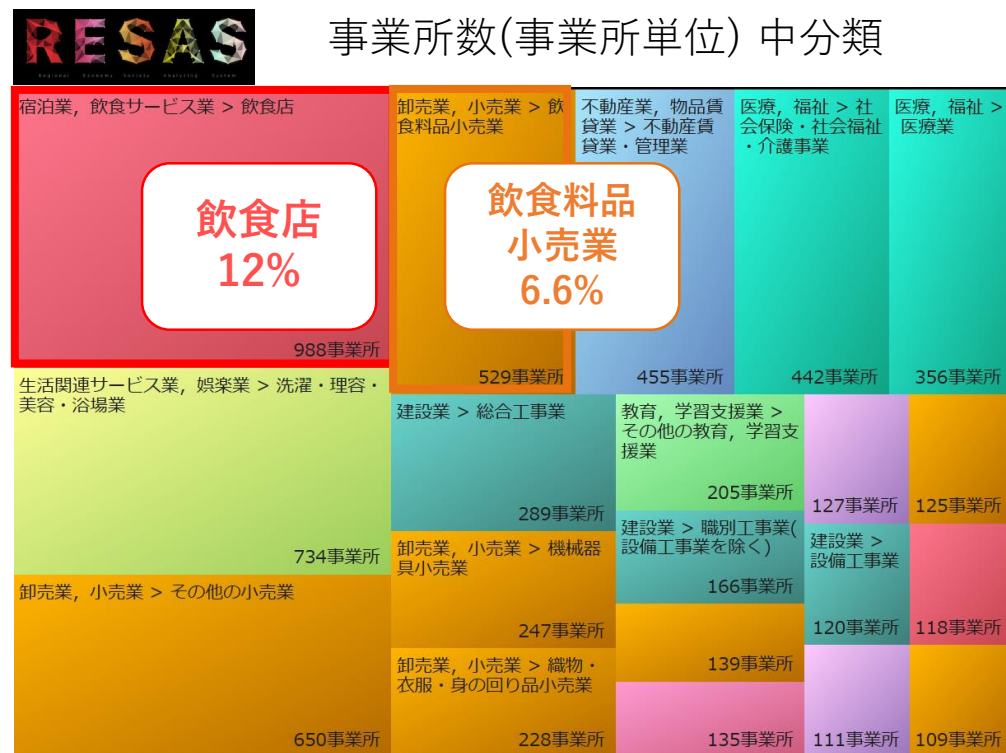


■ 12月 ■ 1月
青森地方気象台 2018年12月
2019年1月

県内の都市部の中では降雪量が多い

販売農家数	
弘前市	5,719
県平均	872
全国平均	771

県内1位！



母子世帯数

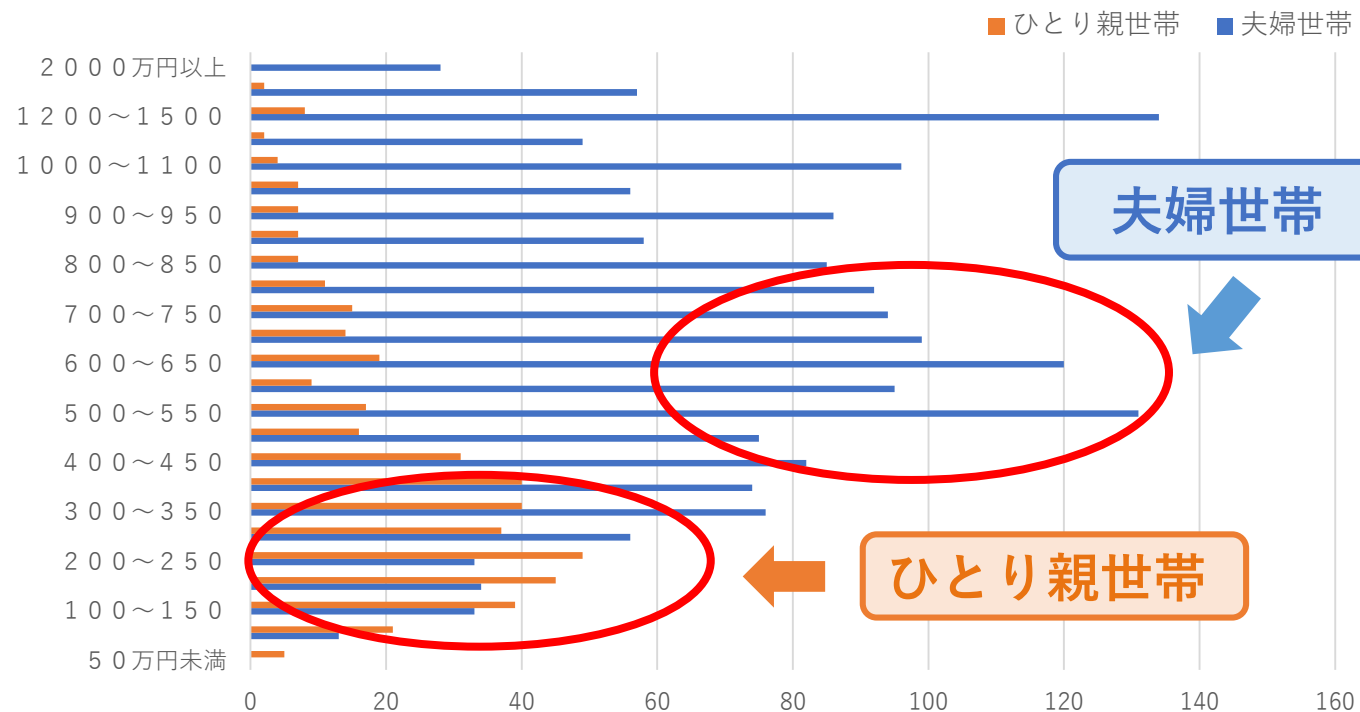
弘前市	1,932
県平均	377
全国平均	610

県平均の約6倍、
全国平均の約3倍

ひとり親世帯と貧困の関係

- 全国的にひとり親世帯の所得は夫婦世帯より低い水準にある
- また、児童手当の受給者数も増加している

ひとり親世帯と夫婦世帯の所得



児童手当受給者数

2016年→1241万1091人



2017年→**1245万4797人**

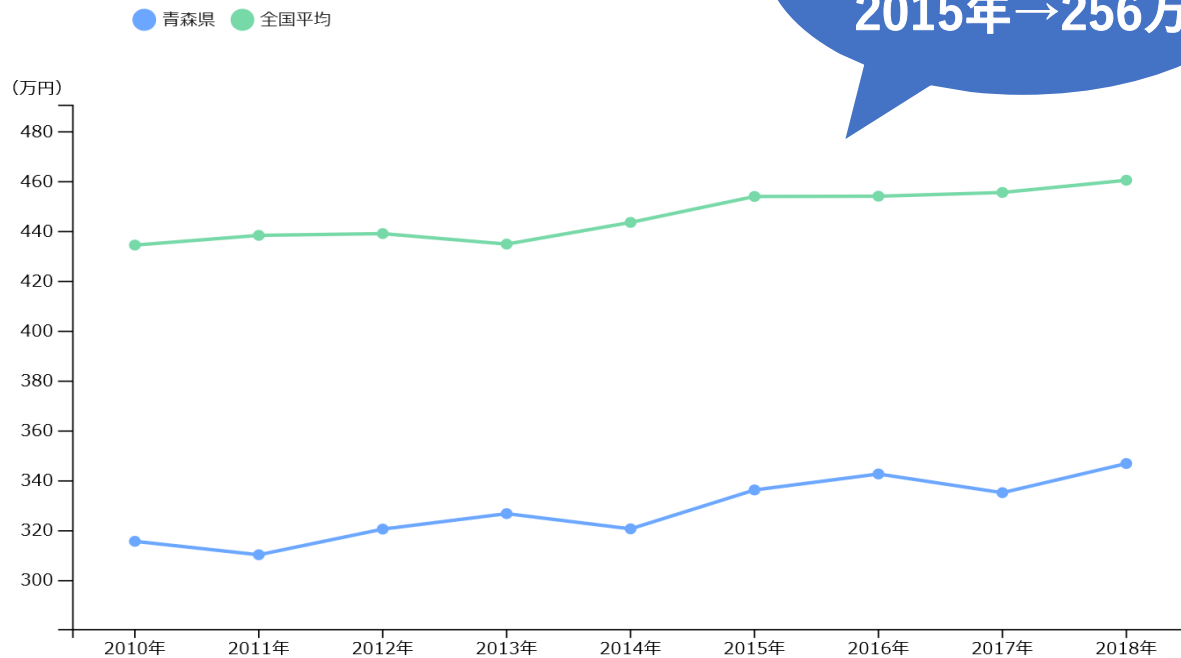
参考：「国民生活基礎調査」厚生労働省、
「児童手当事業年報」内閣府

弘前市の課題①

- 青森県では全国平均と比較して一人当たり賃金が低く、弘前市はその数値をさらに下回っている
- 生活保護の保護率でも弘前市は県の数値を上回っており、保護率は横ばいである

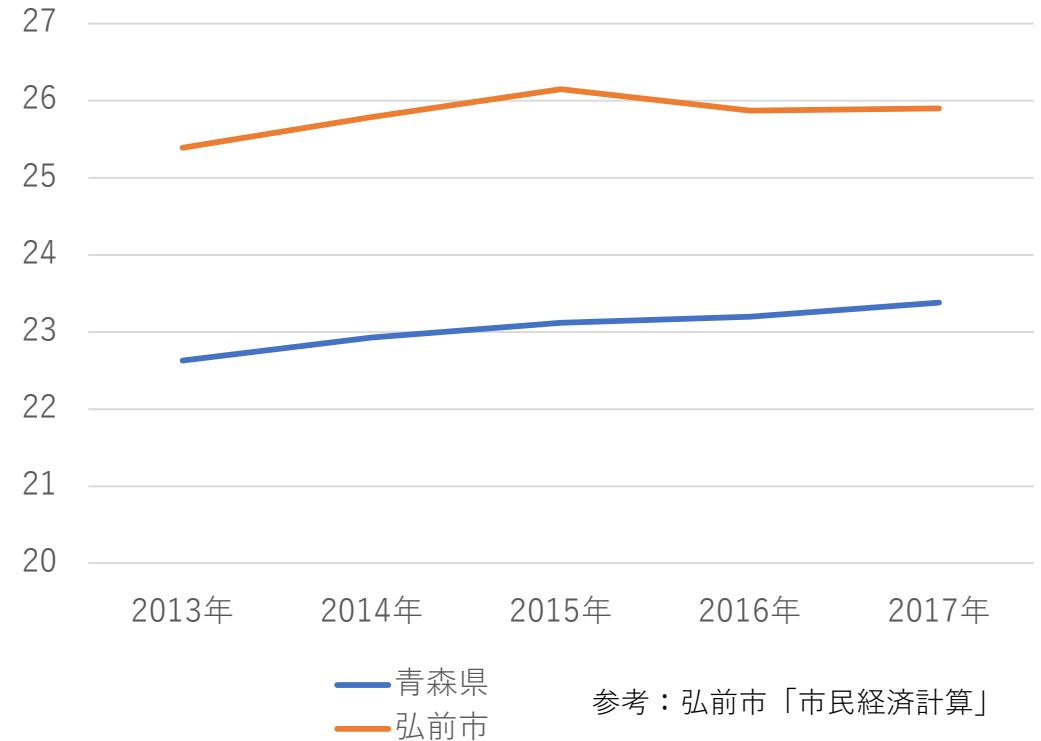


一人当たり賃金
すべての大分類 > すべての中分類
総数



弘前市では
2010年→209万
2015年→256万

生活保護・保護率

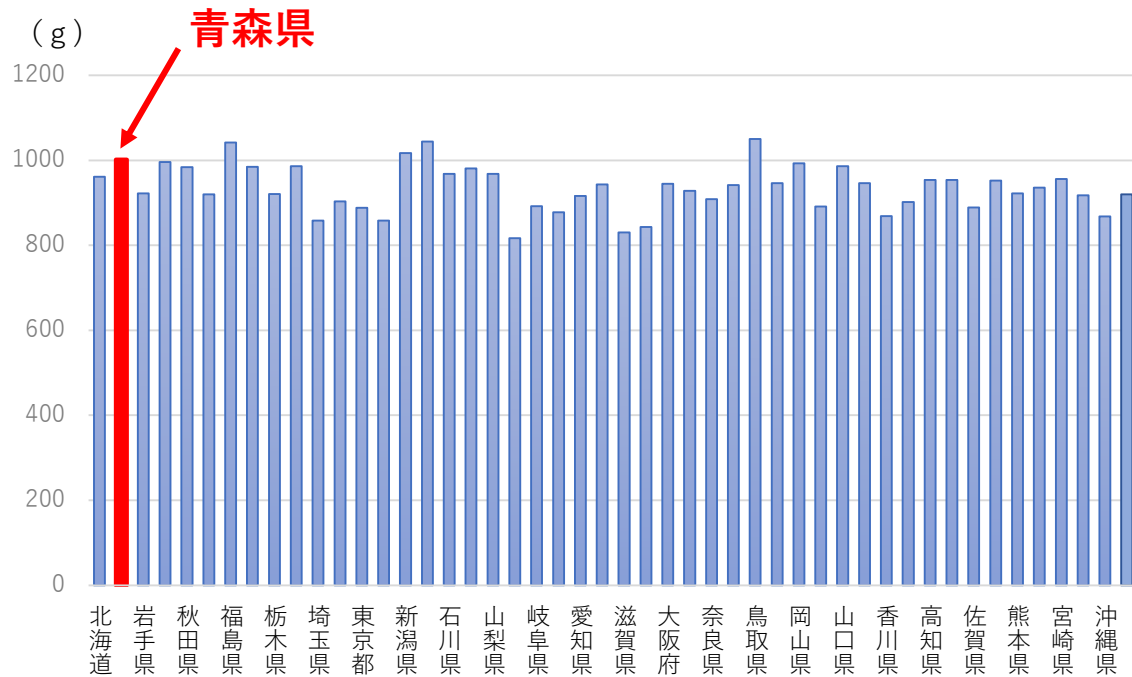


参考：弘前市「市民経済計算」

弘前市の課題①

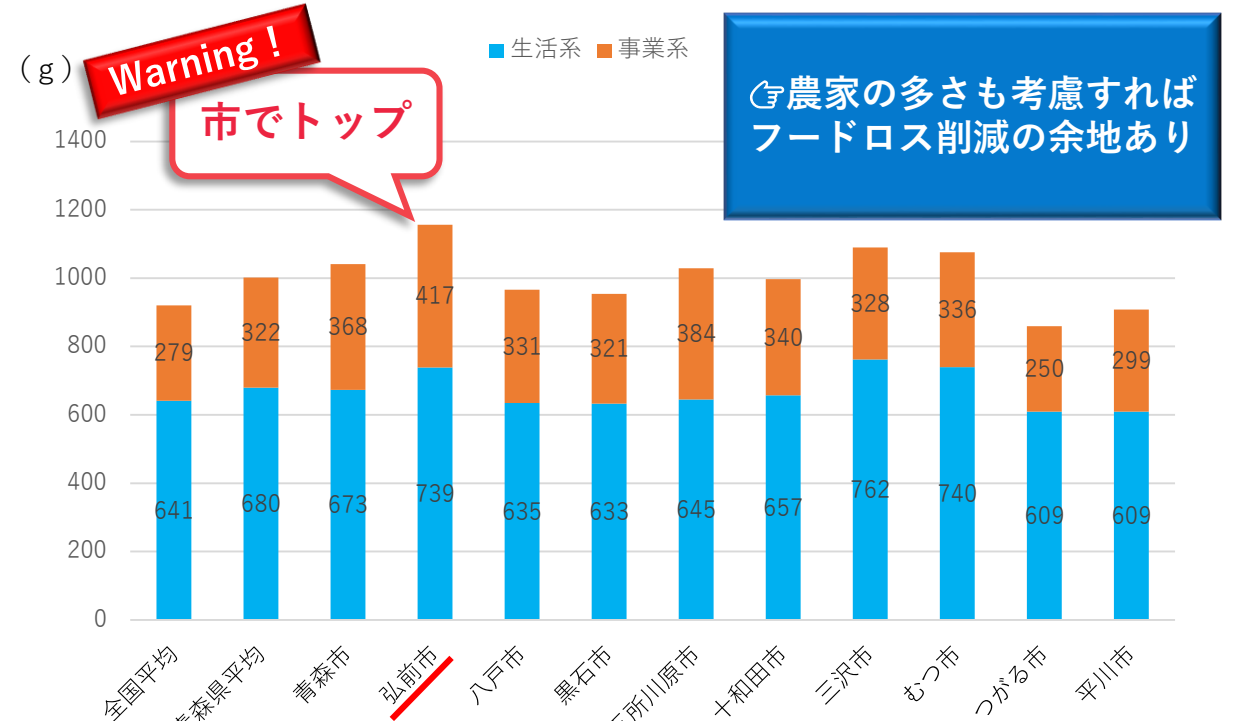
- 青森県のごみ排出量は全国で5番目に多い
- 当市のごみ排出量は全国及び青森県平均、そして県内10市の中でも多くなっている

1人1日当たりのごみの排出量（都道府県別）



青森県庁「都道府県別排出及び処理状況」(平成29年度)

1人1日当たりのごみの排出量
(全国平均・青森県平均・県内10市)



青森県庁「一般廃棄物の排出及び処理状況について」(平成29年度)

こども食堂・フードバンクに注目！

フードバンクの食料をこども食堂に活かす取り組みが弘前市でできないか

こども食堂の役割

無料または低額で子供たちや対象者に食事が提供される、地域コミュニティの場。

- ・ こどもの孤食を防ぐ
- ・ 子供の学習支援
- ・ 地域間交流、多世代交流
- ・ 地域コミュニティの強化などの効果

経済格差・教育格差是正
→ 貧困の解消



フードバンクの役割

農家、企業、レストラン、家庭から食料の寄付を募り収集し、児童養護施設、老人ホーム、コミュニティセンターなどに配布。行き場のなくなった食べ物の活路を見出す。

寄付者：廃棄費用の削減
寄付先：食費の削減
→ 食料廃棄量の削減

2つの課題にアプローチ

弘前市の課題③

- 平均的な充足率であるが、貧困が解消されない状況
- 広域的に支援が行き届いていない、遠方からはアクセスしづらい

市内のこども食堂の充足率

弘前市	青森県	5.6%	こども食堂 小学校
17.1%	全国平均	17.3%	
	沖縄県	60.5%	

NPO法人全国こども食堂支援センター むすびえ 弘前市役所ホームページ

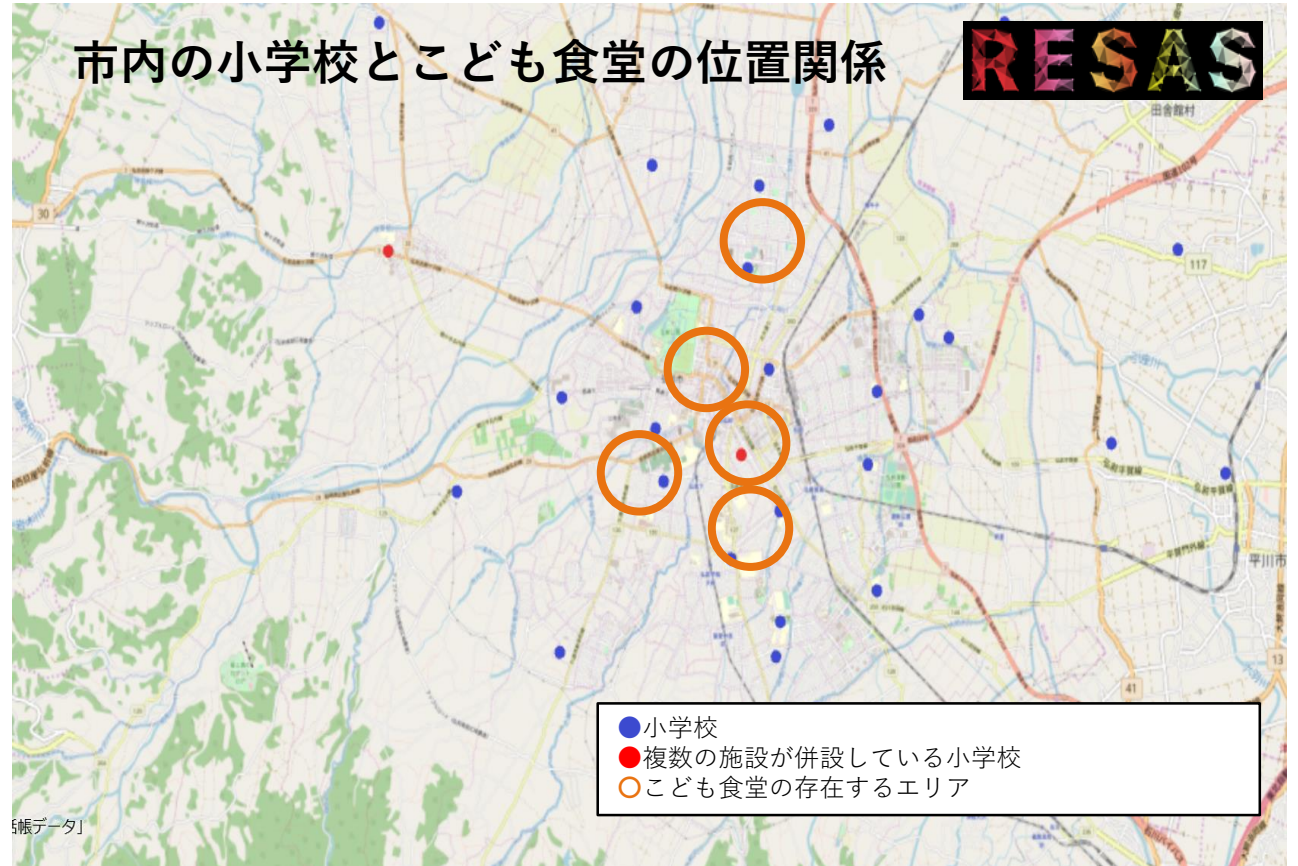
片親世帯の比較

弘前市	全国平均	8.9%
11.2%	沖縄県	12.6%
	※沖縄県は充足率全国1位	

平成27年 総務省統計局国勢調査

沖縄県と比べると、片親世帯の割合に対し、こども食堂が不足している

市内の小学校とこども食堂の位置関係



〔帳データ〕

弘前市の課題④

● フードバンクがないため、運営側の負担が大きい

市内のこども食堂の運営構造

弘前市
0件

フードバンクの例

青森県 1件（青森市）
青森県民生協（フードドライブ）

平成29年「国内フードバンクの活動実施把握調査及びフードバンク活用推進情報交換会実施報告書」



市内のこども食堂の運営構造

新たな立ち上げや
維持が困難な状況



農林水産省「子供食堂と地域が連携して進める食育活動事例集」より作成（上位4つ）

課題解決の
POINT

持続可能な運営構造をつくること

先行事例（国内：埼玉県）

- 行政組織が主体となって活動に取り組んでいる
- 県と企業が連携して活動

フードBOX・周知BOXの活用

周知BOX・フードBOX イメージ写真



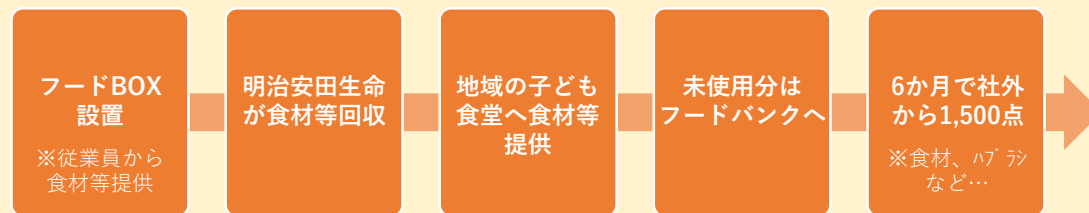
周知BOXで子ども食堂チラシ・
飴など情報をご提供します。

協力企業さま名を、フードBOXに
記載します。1か月を目途に、企
業名を追加していきます。

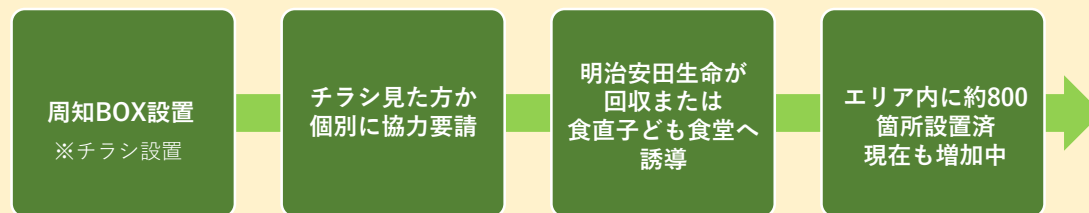
BOXサイズ
直径：37cm 高さ：47cm

フードバンクと企業との連携

フードBOXを活用した活動例



周知BOXを活用した活動例



先行事例（国外：ハワイ）

- 各地のフードバンクが取りまとめ組織（Feeding America）に所属している
- 国による支援策が取られている（助成金制度・税制優遇制度・法律の制定など）



活動概要



①食品企業等、行政機関、個人から食品が取りまとめ組織に寄付される



②食品を必要としている各地のフードバンクに食品を運搬する



③食品は安全に保管され、各地の施設に配布される



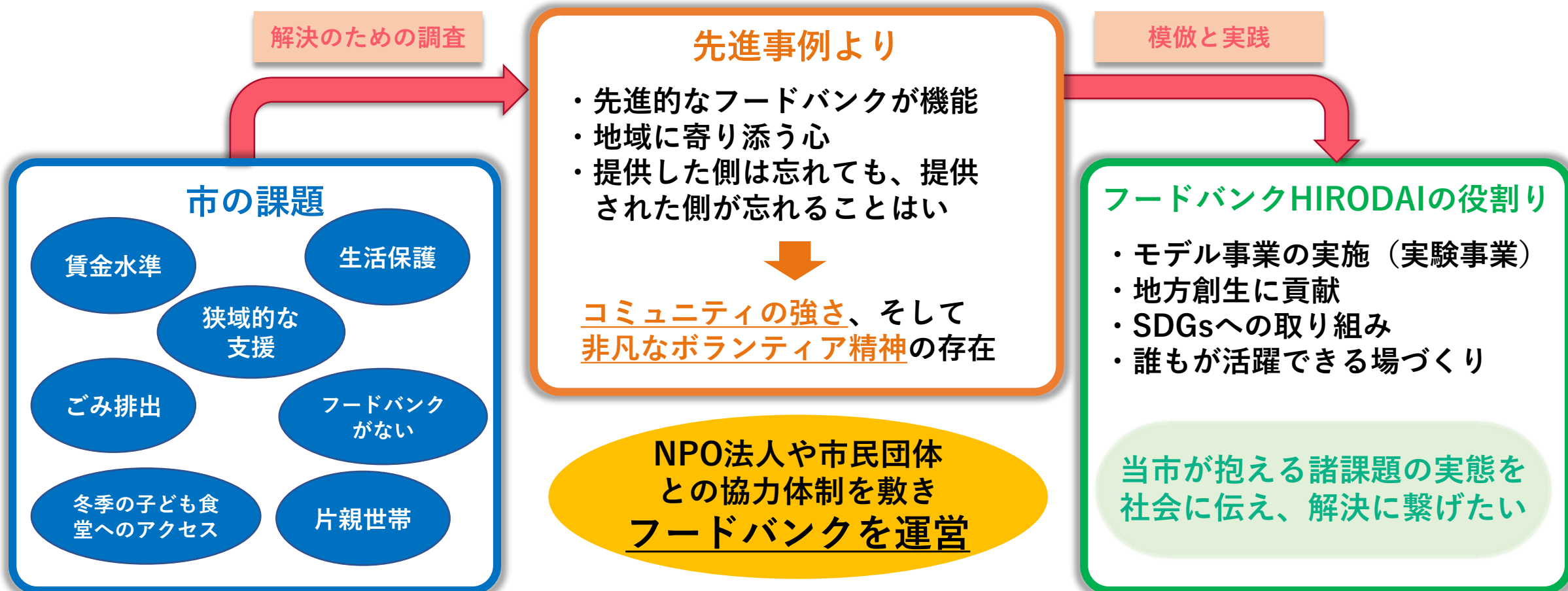
④寄付された食品が食堂などを通じて、食べ物を必要としている人に届く

フードバンクHIRODAI ハワイでの活動の様子



政策提言

- 食料寄付者（寺、農家、小売店、市民）と子ども食堂を繋ぐフードバンクを学生主体で実践
- 地域のNPO法人や市民団体との連携を図り、大学が中心の持続可能な仕組みへ



実際の活動の様子

● 配布したチラシ

フードバンクHIRODAI

ご家庭に眠っている食品 ありませんか？

フードバンクHIRODAIは、弘前における見えない貧困を解決するため、フードバンクに着目して活動しようと考えています。弘前でフードバンクを発展させていくために、民間に先駆けて私たちが実験事業として行います。今回はご寄付いただいた食品を子ども食堂のクリスマス会などで配布します。

寄付いただきたい食品

- お菓子類 (せんべい、ぐみ、チョコレートなど)
- インスタント食品 (カップ麺、みそ汁、スープなど)
- 乾麺 (そうめん、スパゲッティ、うどんなど)
- 調味料 (醤油、みそなど)
- 乾物 (海苔、干し椎茸など)
- 栄養食品 (カロリーメイト、SOYJOYなど)
- レトルト食品 (カレー、牛丼、親子丼など)
- 缶詰 (ツナ缶、鯖缶、果物など)

※賞味期限が2019/12/31以降のものでお願いします。
引き取り日時を指定していただければ、回収しに参ります。
ご連絡は下記の連絡先までお願いいたします。

※画像は一例です。



募集期間
11/29
まで

フードバンクHIRODAIとは？

フードバンクHIRODAIは、弘前大学人文社会学部3年、李ゼミナールで運営しています。フードバンクとは、まだ食べられるのに行き場を失ってしまった食料を、寄付者から回収し、必要とする場所に届ける、寄付者と届け先を結ぶ中間的な役割をしている組織のことです。弘前でフードバンクを発展させていくため、弘大の学生である私たちが動き、何が必要で問題はどこにあるかを示すことが必要だと思っています。あくまでも実験事業ですが、私たちの活動にご賛同いただけるとうれしいです！

Twitterでは、フードバンクHIRODAIの活動について発信中です。お気軽にフォローしてください！

FBHD_aomori

お問い合わせ 弘前大学人文社会学部 李 永俊

TEL:0172-39-3255 (平日10:00~17:00) Email: yilee@hirosaki-u.ac.jp

郵送先: 〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大学人文社会学部 李ゼミナール

※ご郵送いただける場合は元払いとなりますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

● お寺での回収の様子

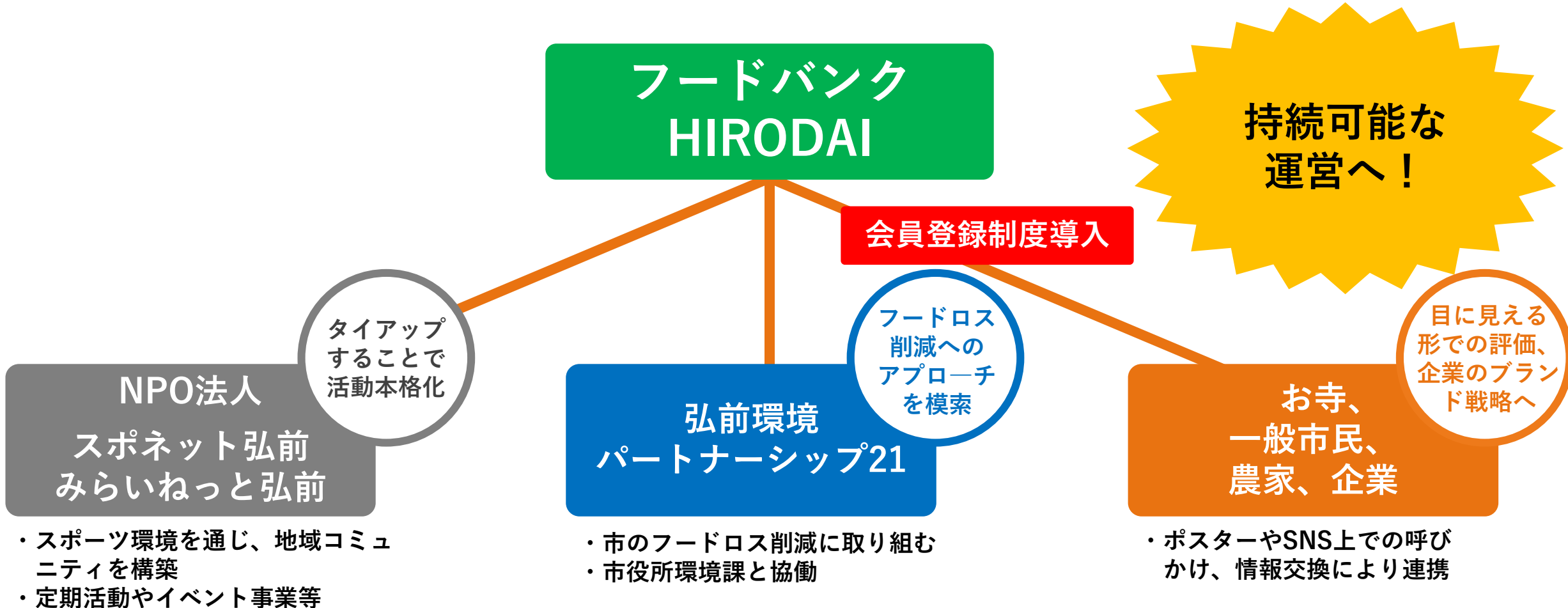


● 集まった食料の例



フードバンクHIRODAI独自のコンセプト

- 地域課題に関心のある組織や人々の参加、協力を誘発し、市全体で動く
- 後にスポンサー会員登録の制度を取り入れ、資金調達、実施場所の確保を可能にする



事業の具体的な効果

短期的効果

NPOの立ち上げ

↓
雇用の創出

ゴミの減少

↓
ゴミ処理費用の削減・
環境保全

中・長期的効果

こどもの貧困の解消

↓
教育水準・所得水準の上昇

↓
所得が増える

↓
消費が増える

↓
経済の活性化・働く場の増加

↓
人口流出の防止

↓
生活保護負担が減少

↓
市の財政の健全化

そして、
持続可能な
社会へ

フードバンクが子供の貧困解決・環境保全・資源の有効活用

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



子どもたちの
笑顔あふれるまち
学都ひろさきへ

